



コスモス
火畑に
行ってきたよ

はぐ便り

2025年
9月号
【第123号】



幼児期の学習習慣づくり



学習習慣の大切さ

子どもは何度も繰り返して学習することで、知識や技能を習得していきます。そのため、幼いころから日常の中で自然に学ぶ習慣を身につけることが重要です。

学習習慣は、単に学校で良い成績をとるためのものだけではありません。平均寿命が延び、仕事や生活環境が急速に変化している今の時代においては、その変化に対応するために、生涯学び続ける力が必要です。つまり、学習習慣は「子ども時代だけの習慣」ではなく、“一生役立つ力”となります。

特に幼児期は、気持ちの持ち方や、やる気、生活リズムといった人格の基盤が形成されるととても大切な時期です。この時期に学び続ける土台を築くことは、その後の成長や人生の充実度に大きく影響します。



「後伸びする力」って??



幼児期は、「遊びを通して自分から物事にかかり、試してみる」経験が大切です。こうした経験は、学校で学ぶ内容を「実感を伴って理解する力」へとつながります。

たとえば、砂場遊びで水が流れにくいことに気づき、傾きを工夫した経験は、小学校の理科で、水の流れや重力について学ぶとき、実感を伴った理解につながります。

これが「後伸びする力」

です。



また、普段の生活の中で体を使ってたくさんの経験をし、言葉や数の理解を積み重ねていくと、国語や算数での学びもスムーズになります。



家庭でできる学習習慣の土台づくり

1. 基本的な生活習慣を整えましょう!

よく食べ、よく遊び、よく眠ることで規則正しい生活リズムを作ります。

これにより心身の健康が保たれ、社会性や学習意欲の土台が育まれます。

2. 自立心を育て、努力や工夫を評価しましょう!

「できることは自分でやろう」という気持ちを尊重します。

うまくいった結果だけでなく、挑戦や試行錯誤の過程も「すごいね!」、「よく考えたね!」と、努力や工夫を認める声かけを行います。

3. 興味や関心を尊重し、親子の関わりを深めましょう!

お子さんの「好き!」という気持ちに応えて一緒に遊んだり、工作をしたり、本を読むなどの活動を通して、好奇心・創造力・思考力を引き出し、その成果を認めます。

4. 「なぜ?」、「どうして?」を大切にしましょう!

子どもの疑問に寄り添い、一緒に調べたり考えたりしましょう。学ぶ楽しさや探究心を育て、無理のない範囲で集中して机に向かう時間を作ることをオススメします。

幼児期の学習習慣は、「勉強させる」ことではなく、自ら「学びたい!」という気持ちを育てることが目的です。日々の何気ない親子の関わりや日常生活の積み重ねが、将来の学びの姿勢と可能性を大きく広げます。



盛岡市家庭教育情報通信『はぐ便り』2025年9月号
第123号 令和7年9月22日発行
発行者・問合せ：盛岡市教育委員会 生涯学習課
住所：盛岡市津志田14-37-2 TEL:019-639-9046
E-mail:edu.sgs@city.morioka.iwate.jp

